

## 『ふるさと宇田を愛し、好きになる子どもの育成』

### 阿武町立宇田小学校

#### — 学 校 の 概 要 —

##### ① 学校規模

- 学級数：4学級
- 生徒数：14人
- 教職員数：8人
- 活動の対象学年：全学年・14人

##### ② 体験活動の観点などからみた学校環境

- 県北西部の日本海に面し、一帯は北長門国定公園に指定されている。山と海に囲まれた自然豊かな場所である。
- 少子高齢化・過疎化が進み、児童数が年々減少し続けている。平成15年度からは完全複式学級となっている。
- 地域住民や保護者の学校教育に対する関心は高く、参観日や学校行事への保護者の出席率はほぼ100%で、様々な教育活動に対して協力的で多くの支援を受けている。
- 以前から地域と一体となった活動や地域行事が盛んに行われ、地域との連携がたいへん密接である。

##### ③ 連絡先

- 〒759-3501  
阿武郡阿武町宇田2251番地
- 電 話：08388-4-0006
- F A X：08388-4-0666
- ホームページ：<http://www.haginet.ne.jp/users/uta-e/>
- 電子メール：uta-e@haginet.ne.jp

#### — 体 験 活 動 の 概 要 —

##### ① 活動のねらい

- 地域の自然や人のよさを感じ、ふるさと宇田を愛し、誇りに思う心を育む。
- 体験活動を通して、自他のよさを認め合い、主体的に行動する力を養う。

##### ② 活動内容と教育課程上の位置付け

- 各学年の計画により、低学年は生活科、中・高学年は総合的な学習の時間、全校に関わる活動は特別活動の時間の中での実施を基本とする。
- 社会奉仕に関わる体験活動  
お年寄りとのふれあいを通して校区内の清掃作業を行うことにより、ボランティアの心を育て、豊かな学校生活が送れるようにする。  
(勤労生産・**奉仕活動**)2単位時間)
- 勤労生産に関わる体験活動  
地域の自然にふれながら勤労生産体験活動をしたり、各学年の学習の時間でいう栽培活動を通して、学習を深める。  
(生活科・総合的な学習の時間21単位時間)
- 交流に関わる体験活動  
地域の指導者のもとでの稲作体験や収穫した餅米での餅つき大会を行い、老人・保護者・子どもによる三世代のふれあいを深める。「宇田小フェスティバル」と銘打った収穫祭・学習発表会の開催  
(生活科・総合的な学習の時間4単位時間)

#### 1 活動に関する学校の全体計画

##### ○ 活動のねらい

1年次の取組から、活動の精選や外部指導者との連絡調整に課題があることが分かった。そこで、本年度は、全校での活動のメインを米作りという一つの大きな活動にしぼりこむことにした。また、その分だけ深みをもたせ、米作りから派生する付加的な活動もしっかり取り入れながら、自然や地域の方とのふれあいを通して、ふるさと宇田のよさを再発見し、愛着

や誇りをもつ子どもを育てるということを全校で共通理解して研究を推進していくことにした。

## 2年次活動テーマ『ふるさと宇田を愛し、宇田を誇りに思う子どもの育成』

### ○ 全体の指導計画

#### (1) 活動の名称

「We Love 宇田」～ふるさと宇田を愛し、好きになる子どもの育成～

#### (2) 実施学年、活動内容、教育課程上の位置付け等

ここでは、今年度全校で実施した活動の中の特色あるもののみ紹介することとする。

学年	単元名と主な活動内容	教育課程上の位置付け	期間・単位時間数
全	宇田郷クリーン作戦 (お年寄りとの校区内清掃活動)	特別活動	10月12日 2時間
全	わくわく稲作体験活動① (籾蒔き～脱穀：全7工程)	生活科 総合的な学習の時間	4月～10月 14時間
全	わくわく稲作体験活動② 宇田小フェスティバル 餅つき大会(三世代ふれあい学習)	特別活動	11月25日 4時間
全	わくわく稲作体験活動③ しめ縄作り活動	生活科 総合的な学習の時間	12月19日 2時間

## 2 活動の実際

### ○ 事前指導

(1) 前年度からの継続活動を見直し、さらに精選・深化・発展させていくために、年度当初に全学年実施の体験活動について共通理解を行った。

(2) 全校での体験活動を行う際には、縦割り班を活動グループに設定し、各学年の発達段階に応じて役割を担わせ、協力をしながら体験活動に取り組ませることができるようにした。また、毎回の活動のしめくくりには、全員に活動での感想や気づき・発見を発表する機会も持たせることを共通理解した。

### ○ 活動の展開

ここでは、紙面の都合上、全校で実施した活動のみを示すこととする。

#### (1) 全校での活動事例（稲作体験・餅つき大会～三世代ふれあい活動・注連縄作り）

○ わくわく稲作体験活動①～③（籾蒔き～注連縄作り：全9次 総時数20時間） ※勤労生産に関わる体験活動・交流に関わる体験活動	
教育課程上の位置付け	生活科（1年）、総合的な学習の時間（3，4，5，6年）
活動の場	学校花壇前、学校農園、多目的ホール
【1学期～2学期末にかけての活動】	
(1) ① 籾蒔き(5/7) ② 育苗(5/14～6/4) ③ 代掻き(6/1) ④ 田植え(6/4)	
(2) ⑤ 案山子作り・設置(9/5～9/14) ⑥ 稲刈り・はぜがけ(10/3) ⑦ 脱穀(10/16)	
⑧ 宇田小フェスティバル・餅つき大会(11/25) ⑨ しめ縄作り(12/19)	
○ 5月には籾蒔きや育苗、6月には泥んこになりながら代掻き・田植えの活動を行って、農家の方達の苦労や、稲が育つ豊かな土の感触・不思議さ・土中で生きる生き物の存在を	

五感で感じとり、見る自然と触れる自然との違いをはっきりと認識することが出来た。

- 9月には鳥・スズメよけの対策として、班の子どもたちの思いやアイデアを生かしたユニークな案山子を作り、田に設置した。10月には一人ひとりが鎌を手に持って「ザクッ」という音を味わいながらの稲刈り、そして脱穀を行い、粃が稲穂になるまでの成長を自然に感謝し、収穫の喜びを味わった。



- 11月には、収穫した餅米でお年寄り・保護者との餅つき大会を行い、杵の持ち方・動かし方を教えてもらいながら楽しい雰囲気の中で活動することができた。12月には地域の方を講師に迎え、収穫で余ったわらを用いてしめ縄作りを行った。子どもたちからは、先人の知恵に感心するつぶやきも聞かれた。稲作だけにとどまらず、お米作りに関わる様々な活動を丸ごと体験することができたことは非常に意義があるものであった。



## (2) 学年の特色ある活動事例

- 5, 6年の特色ある活動事例（家庭科・総合的な学習の時間）

ふるさと宇田の海の美しさ・地域の人たちのすばらしさを「食を通して」伝えることに取り組んだ。地元の食材を生かしてオリジナルメニューを作り、地域のお祭りや料理コンテストで料理を紹介し、宇田のよさをアピールすることにした。オリジナルメニューを作る際には、地元の漁業婦人部の方に協力していただき、イカのさばき方の指導や料理の評価もお願いした。

イカをさばくのは初めての子どもたちがほとんどで、できないことができたようになった喜びは勿論のこと、自分たちのふるさとで取れた産物を自分たちの手で調理できた誇りも感じる事が出来た。また、オリジナルメニュー「宇田のびっくり詰め」「海のふるさと焼き」では、婦人部の方たちの太鼓判をいただき、自信をもって地域の「ふれあい祭り」に出店して試食をしてもらうことができ、子どもたちの思いを達成することができた。地域の方を含めたたくさんの方たちとのふれあいを通して、ふるさと宇田のよさをさらに実感し、深める活動となった。

- 事後指導

全学年について活動の様子を画像で保存するとともに、活動ごとにふり返しカードや作文を書かせ、個人ファイルに綴り、次年度以降にも継続・発展させていくことにしている。

## 3 体験活動の実施体制

- 学校支援委員会の体制

学校支援委員会は、年度当初に計画した全校での体験活動を推進するにあたって、指導や支援をいただく地域の関係諸機関、地域の指導者、学校評議員などで構成している。

学校の意図する体験活動の円滑な実施への協力や指導などをその都度お願いしている。

○ 配慮事項等

- ① 校外学習を行う際には、できるだけ複数の指導者で対応し、児童の安全確保に努めた。
- ② 地域の方を講師として迎える際には、全体の流れや役割分担など、交流の在り方についての打ち合わせを密にし、有意義な時間がもてるように配慮した。

#### 4 体験活動の評価の工夫と指導の改善

○ 評価の工夫

- ① 少人数であることで教師の目が子どもたちに行き渡るというメリットを生かし、教師と子どもたちが共に活動する中で、子どもたちの取り組みの様子や表情・会話・つぶやきなどを大切にし、細かに観察していくようにした。
- ② 事後の振り返り活動での感想・気づきの発言や、個別に取り組ませたまどめの記録の内容から判断していくようにした。

○ 指導の改善

個人別の記録を時系列で保存していくことで、ものの見方や感じ方の変容を見取ることができるように配慮し、子どもたちの発達段階や能力・特性に応じて個別の支援の在り方を考えていくことができるようにした。

#### 5 活動の成果と課題

○ 活動の成果

- (1) 全校での稲作体験活動を通して、児童は改めて宇田のよさを発見し、ふるさと宇田への郷土愛の素地を高めるとともに、人とかかわる喜びも深めることができた。発達段階によって様々な違いはあるが、子どもたちのものの見方や感じ方について、以下に示したような成長が見られるようになった。
  - ① 新しい発見・知る喜びが感じられ、自然への感動や豊かな感性・心が育ってきている。
  - ② 友と協力する喜びを感じる心や、お世話してくださる方への感謝の心が育ってきている。
  - ③ 米作りの意外な知識や大変さを知り、体験の中で様々な感覚をつかむことができた。
  - ④ 感動体験の発表の場をもつことで、伝え合う力が少しずつ育ってきている。
- (2) 学校の取組が一つの発信源となって、家庭や地域に宇田のよさを再認識してもらうことができ、地域の中で、子どもを育てていこうとする意識が高まった。
- (3) 活動体験と、その活動の意味を裏付けてくれる地域の方のフォローがあったことで、児童の知識と心・感覚が結びつき、単なる活動に終わらず、学びを高めていくことができた。

○ 今後の課題、改善点等

- (1) 児童の主体性を大切に、「もっと～したい・やりたい」という気持ちをさらに引き出せるように、児童自身が活動内容を作り出す体験活動を考えたい。また、成功させるように仕向けるのではなく、失敗の中から価値をつかみ取ることができるような体験活動も考えていきたい。
- (2) 一過性の体験活動にならないように、さらに価値ある体験活動の教材を開発し、そこから子どもたちが発達段階に応じて生活の中の課題を見つけ、学校生活の中でも生かしていくことが出来るようにしていきたい。